

表紙裏 心の眼（新しき世界へ 1971年6月号）

桜沢如一

たとえ高い生活水準をうち立てることが出来、又生命を伸ばし、流行病、癌、老衰だけでなく、思想的な争いから、あらゆる悩み、苦しみ、社会不安に至るまで、人間の一切の苦しみを克服する事が出来たとしても、自由や平和や、正義や、真理の原理を知らないのなら、全く何の役にもたたない。なぜなら、それは全体主義唯物論や、神化した科学や、もっともらしい宗教的な、悲しい、従って限りある、空想的ユートピアか、自己矛盾的な「武装平和」に過ぎないからである。絶対無限、真理、あらゆる原因の原因を見る心の眼が人工的な日蝕状態になっているからである。人間が創造主や人、自然、その因果法則をふくむ宇宙の秩序を知らないなら、彼はそれを楽しむことは全く出来ない。幸福、信念、真理自由などは、科学は云うまでもないが、唯物論的哲学の単なる因習や、偶像崇拜的、ガイ念の社会政策の外にあるのである。

（「武器いらぬ人」より）

本文の複写、複製、転載、その他いかなる方法による使用の際には日本 CI 協会にご相談ください